

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12525

研究課題名(和文)近代中国ムスリムの起源説話とアイデンティティ形成：民族政策への影響を中心に

研究課題名(英文) Sino-Muslims' Origin Myths and Identity Construction in Modern China: Their Influences on Ethnic Policies

研究代表者

海野 典子 (UNNO, Noriko)

早稲田大学・高等研究所・講師(任期付)

研究者番号：30815759

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、近代中国の漢語を話すムスリム(回民)の起源説話が、彼らのアイデンティティ形成過程、及び中国の民族政策において果たした役割を解明することである。新型コロナウイルスの感染拡大により、当初予定していた海外での資料調査やインタビュー調査を実施することができず、回民の起源説話が民族政策に与えた直接的影響について十分な考察を行うことができなかった。しかし、近代中国領中央アジアのテュルク系ムスリム歴史学者までもが回民の起源説話を「史実」として引用していたことを示し、回民の起源説話が広く中国領のムスリムの歴史認識や民族・宗教・国家観に影響を及ぼしてきたことを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代中国の漢語を話すムスリム(回民)の起源説話は、「史実」ではないと一部の回民や外国人研究者に批判されながらも、彼らのアイデンティティ形成過程、及び中国の民族政策において重要な役割を果たしたと考えられる。また、これらの起源説話は、回民自身だけではなく、近代中国領中央アジアのテュルク系ムスリムの歴史認識や民族・宗教・国家観にも影響を及ぼした。本研究の学術的意義は、近現代中国の民族・宗教政策のあり方に多大な影響を与えたとされる回民の歴史認識、集合記憶の一端を明らかにしたことである。また、ムスリムの視点から中国の民族・宗教問題の深層を読み解く本研究には、大きな社会的意義があると言える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to elucidate how the origin myths of Sinophone Muslims (Hui people) played a role in the process of their identity construction and China's ethnic policies. Due to the outbreak of COVID-19, I was unable to travel abroad and conduct archival research or interviews as originally scheduled. However, this study has revealed that Sino-Muslims' origin myths had broad influences on the historical consciousness and views on ethnicity, religion, and state of Muslims in the Chinese territory by showing that even Turkic Muslim historians in modern Chinese Central Asia cited these legends as "historical facts."

研究分野：中国・中央ユーラシア近現代史、イスラーム地域研究

キーワード：中国 イスラーム ムスリム 回族 起源説話 民族政策 中央アジア 歴史

1. 研究開始当初の背景

約 2300 万のムスリム人口を抱える中華人民共和国最大のムスリム集団、回族(約 1100 万人)は、7 世紀から 13 世紀に来華した、中央アジアや西アジア出身のムスリムと中国土着の人々の通婚によって形成された人間集団とされる。漢語を日常的に話し容貌も漢人に相似している彼らは、清朝や中華民国政府によって漢人の宗教集団と見なされた。一方、1940 年代の中国共産党は、外来ムスリムの末裔であること・共通の起源説話や歴史認識を有することを理由に掲げ、彼らを漢人とは異なる単一の「民族」である回族と認定し、自治権を与えた。回族に対する中共のこのような政策は、近現代中国の民族政策の基礎を作ったのみならず、漢語を話すムスリムを「民族」と認めないソ連共産党のスターリンとの間に緊張関係をもたらしたという意味で、極めて重要である。

中国共産党が注目したムスリムの起源説話とは、17 世紀以降、中国各地のムスリム社会で広まった『回回原来』『西来宗譜』などの民間伝承のことである。それによると、7 世紀中葉、唐の皇帝に妖怪退治を依頼された預言者ムハンマドが中国に派遣した 3 人のアラブ人ムスリムが中国に定住し、漢語を話すムスリムの祖先となったという。近現代の中国・日本・欧米・イスラーム世界の歴史家たちは、ムハンマドが中国に使節を派遣した形跡はないとして、これらの民間伝承を事実無根であると一蹴してきた。しかし、20 世紀前半、漢語を話すムスリムの一部は、これらの民間伝承を信頼にたる一次史料と位置付け独自の「民族史」を描くことによって、漢人との「民族」的差異を主張する。

このように、中国ムスリムの起源説話は史実ではないと批判されつつも、「民族史」の歴史的根拠としてムスリム自身や政治権力によって受容されてきた。それでは、これらの民間伝承に基づくムスリムの歴史認識はどのように形成され、中国の民族政策や隣接地域(特にムスリムが多く暮らすロシア・ソ連領中央アジア)の民族間関係、国際関係にどのような影響を与えたのか。歴史認識をめぐるこれらの問題から、我々は何を学ぶべきか。本課題は、これらの問いを考えるために、近代中国ムスリムの歴史認識やアイデンティティ、及び中国共産党の民族政策の形成過程における民間伝承の役割を明らかにしたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、漢語を話すムスリムの起源説話を彼ら自身が「史実」と見なし歴史叙述に利用するようになった経緯を調べることによって、ムスリムの歴史認識の形成過程を解明することである。第二に、民間伝承を中心に形成された中国ムスリムの歴史認識やアイデンティティが、中国の民族政策に与えた影響を明らかにすることによって、中国を中心とするユーラシアの民族・宗教問題の深層を歴史的に読み解くことである。

3. 研究の方法

本研究で解決すべき点は、第一に、中国国内外の歴史家が荒唐無稽なものとして批判してきた中国ムスリムの起源に関する民間伝承を、20 世紀前半に活躍したムスリムの歴史家が「史実」として扱い始めた理由や経緯である。第二に、こうした民間伝承を根拠としてムスリムの歴史家が叙述した「民族史」が、中国の民族政策に与えたインパクトである。

本課題では次の三点の手法を用いて、研究計画を進めた。

第一に、漢語を話すムスリムの起源説話が歴史叙述に利用され始めた 20 世紀前半の中国のムスリム社会の様相や政治状況を整理した。当時、中国のムスリム社会は、辛亥革命や二度の世界大戦といった政治変動、国家の近代化政策、中東のイスラーム改革運動の影響を受け、大きく揺れていた。また、「民族」を意味する単語(漢語で民族 *minzu*)に関する活発な議論が行われていた中国のムスリムのなかには、国家の民族・宗教政策に積極的に関与することでムスリムの社会的地位を向上させようとする者もいた。

このような時代背景を踏まえつつ、第二に、起源説話が「史実」と認定されるに至った経緯を、漢語を話すムスリムと中国の政治権力との関係に注目して調べ、起源説話の政治的役割を調べた。利用した主な史料は、17 世紀から 20 世紀前半に各地のムスリム社会で流通した起源説話(『回回原来』『西来宗譜』や、族譜(父系血縁集団である宗族の家系図や家訓を記した文書)；

20 世紀前半にムスリム知識人が出版した歴史書(金吉堂 1935『回教民族史研究』)や定期刊行物(『正宗愛国報』『月華』)；中国の民族政策を知るための公文書；漢語を話すムスリムを調査した、中国国内外の学者の書籍や欧米のキリスト教宣教師の報告書、などである。これらの多くは漢語史料文献だが、の一部はアラビア語・ペルシア語・ロシア語・フランス語などの諸外国語で書かれている。また、中国領中央アジアのテュルク系ムスリムがチャガタイ語で書いた、

漢語を話すムスリムの歴史や起源説話に関する本 (*Tārīkh-i Hamīdi, Tārīkh-i Amnīyya*) も分析対象とする。第三に、現代中国の回族社会において、起源説話がどのように受容されているのかについてフィールドワークを行う予定であった。具体的には、伝統的に先祖崇拝が盛んな福建省ではなく、20 世紀前半に多くの起源説話が刊行された北京・天津のムスリムの族譜出版事業や民族史教育の実態、及びそれらに対する地方政府の対応を調べるはずであったが、新型コロナウイルスの感染拡大により中国に渡航することができず、実施することができなかった。

4 . 研究成果

新型コロナウイルスの感染拡大により、当初予定していた海外での資料調査やインタビュー調査を実施することができず、回民の起源説話が民族政策に与えた直接的影響について十分な考察を行うことができなかった。しかし、近代中国領中央アジアのテュルク系ムスリム歴史学者までもが回民の起源説話を「史実」として引用していたことを示し、回民の起源説話が広く中国領のムスリムの歴史認識や民族・宗教・国家観に影響を及ぼしてきたことを明らかにすることができた。その結果、近現代中国の民族・宗教政策のあり方に多大な影響を与えたとされる回民の歴史認識、集合記憶の一端を明らかにするとともに、ムスリムの視点から中国の民族・宗教問題を再考することができた。本研究の成果は、中国近代史に関する英語論集の一章分として、2024 年に刊行される予定である (UNNO, Noriko, “Mirror of Desire: Chinese Emperors in Muslim Folklore and Modern Historiography,” Previato, Tommaso, Ed. *Fear, Heresy, and Crime in Traditional China: Toward an Anthropological History of Emotion and Its Social Management*, Leiden: Brill)。また、本研究の内容は、研究代表者が執筆中の、2024 年刊行予定の日本語の新書にも反映させる所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 海野典子	4. 巻 1027
2. 論文標題 清末民初期の北京における食・衛生・宗教：中国ムスリムの「清真」意識とハラール問題への対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 37, 47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 海野典子	4. 巻 0
2. 論文標題 日本人が見た中華民国期北京のムスリム社会：雑誌『回教』と画集『回回風俗図』を手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小野亮介・海野典子編『近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る』	6. 最初と最後の頁 327, 364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 海野典子	4. 巻 28, 29
2. 論文標題 書評：新保敦子著『日本占領下の中国ムスリム：華北および蒙疆における民族政策と女子教育』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア教育史研究	6. 最初と最後の頁 105, 113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山崎典子	4. 巻 上
2. 論文標題 「从民間伝説来看近代中国穆斯林的皇帝觀：以《回回原来》为中心」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『清末新政与边疆新政』	6. 最初と最後の頁 68, 78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noriko Yamazaki	4. 巻 0
2. 論文標題 “ 20. Asrin Bashlarında Pekin’deki İslam Mektepleri ve Yabancı Musulmanlar ”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Abdurresit İbrahim ve Zamani: Türkiye ve Japonya Arasında Orta Avrasya	6. 最初と最後の頁 25, 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 海野典子	4. 巻 2
2. 論文標題 「中国河南省済源市のムスリム・コミュニティの調査：モスク・民間所蔵資料・ハラールについて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状』	6. 最初と最後の頁 49, 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 海野典子
2. 発表標題 清末天津における交通問題と回民社会：劉孟揚の活動を中心に
3. 学会等名 中国ムスリム研究会第39回定例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noriko Unno
2. 発表標題 Sino-Muslims and the Ottoman Empire in Early 20th-century China
3. 学会等名 The International Symposium of Minpaku (National Museum of Ethnology) Special Project “Global Area Studies: Towards a New Epistemology for Mapping the Globalizing World” (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 海野典子
2. 発表標題 経堂教育と新式教育：20世紀初頭の北京ムスリムの教育改革をめぐる議論と実践
3. 学会等名 「宗教と風紀」連続講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 海野典子
2. 発表標題 愛国・信仰・面子：清末民初華北ムスリム社会における辮髪切除をめぐる議論と実践
3. 学会等名 最新研究でみる辛亥革命への多角的視座：辛亥革命110年シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 海野典子
2. 発表標題 信仰・インテリジェンス・近代化：中国のムスリムとオスマン帝国の関係
3. 学会等名 国立民族学博物館・特別研究「グローバル地域研究と地球社会の認知地図 わたしたちはいかに世界を共創するのか？」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noriko Unno
2. 発表標題 "Globalization of Chinese Muslims?: Russian Muslim Activities in Early Twentieth-Century China"
3. 学会等名 CSI (Centre for the Study of Islam) Research Afternoon, University of Exeter (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 發表者名 海野典子
2. 發表標題 「中國穆斯林與奧斯曼/俄羅斯帝國」
3. 学会等名 國立政治大學俄羅斯研究所 (招待講演)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 海野典子
2. 發表標題 「中國少數民族的研究方法：以回族研究為中心」
3. 学会等名 國立政治大學民族學系 (招待講演)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 海野典子
2. 發表標題 "Russian-Tatar Muslims in Global History"
3. 学会等名 Graduate Institute of Russian Studies, National Chengchi University, Taiwan (招待講演)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 海野典子
2. 發表標題 "Pious Genealogy of Hui Muslims: Origin Myths, Historiography, and Ethnicity"
3. 学会等名 The Workshop for the Studies of Islam and Muslims in China, Department of Ethnology, National Chengchi University, Taiwan (招待講演)
4. 發表年 2019年

1. 発表者名 Noriko Unno
2. 発表標題 The Islamic Revival, Global Muslim Networks, and the Qing and Republican Governments"
3. 学会等名 Wednesday Seminar series, Institute of Chinese Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noriko Unno
2. 発表標題 "Diplomacy, Religion, and the Economy: Chinese Muslims and the Ottoman Empire in the Early 20th Century"
3. 学会等名 European Association for Chinese Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 海野典子
2. 発表標題 「矛盾を受け入れる：近現代中国ムスリム社会における「愛国愛教」と「面子」」
3. 学会等名 東アジア人類学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noriko Unno
2. 発表標題 "The Han Chinese as a Religious Category?: Rethinking Ethnicity, Religion, and "Han Cultural Assimilation" from Muslims' Perspectives"
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小野亮介・海野典子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 385
3. 書名 近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る	

1. 著者名 海野典子「経堂教育と新式教育：20世紀初頭の北京ムスリムの教育改革をめぐる議論と実践」	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 356
3. 書名 高尾賢一郎・後藤恵美・小柳敦史編『宗教と風紀：＜聖なる規範＞から読み解く現代』	

1. 著者名 Noriko Unno, "Ma Fulong"	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 4
3. 書名 Fleet, Kate. et al. eds., Encyclopaedia of Islam, THREE	

1. 著者名 Noriko Unno, "Ma Zhu"	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 4
3. 書名 Fleet, Kate. et al. eds., Encyclopaedia of Islam, THREE	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------